

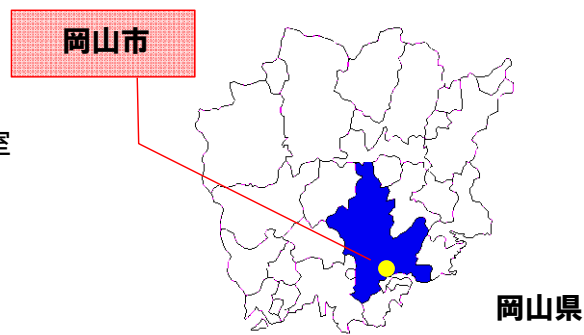
岡山市農林水産課

農業体験を通して食育を推進

岡山市は岡山平野の中央部に位置する、人口約71万人の政令指定都市です。温暖な気候で日照時間も長く「晴れの国」をキャッチフレーズとしています。岡山市役所経済局農林水産課は、3係・1室で構成され、農林水産業の振興に励んでいます。

団体の概要

- 名称 岡山市役所
- 所在地 岡山市北区大供1丁目1番1号
- 担当部署 岡山市 経済局 農林水産課 地域農業振興室
(代表者) 課長 森本 章男
- 電話 086-803-1346
- FAX 086-803-1739
- HPアドレス <http://www.city.okayama.jp/>



食育活動の概要

活動の動機・目的

子ども達が、作物の植え付けから収穫までの一連の農作業体験を行うことにより、自然の尊さや食料の大切さを学び、また、食や農業への関心を高めることを目的に「子ども食農体験事業」を平成10年度から実施しています。

「食育基本法」が策定される以前から、農林水産課で取り組んでおり、農業の担い手づくりや地域の活性化に向けた「食育」を推進しています。

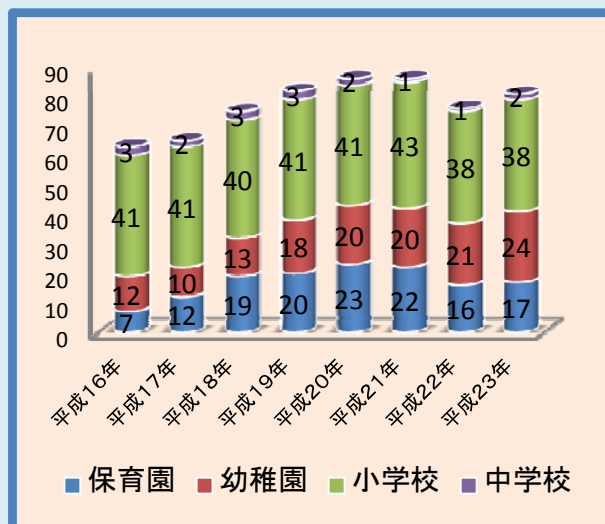
活動の概要

「子ども食農体験事業」は市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校を対象とし、栽培指導を行う指導者に対する謝金を交付しています。

事業の実施者は、ほ場を確保し、植え付けから収穫までの一連の農業体験を行うこととしています。また、平成22年度年からは市内の畜産農家が製造した堆肥を希望校に配布しています。

平成23年度は、41の幼稚園や保育園が「子ども食農体験事業」を活用して農業体験に取り組んでいます。水稻では田植え・草取り・稲刈りなどの作業、さつまいもでは、苗植え・水やり・草取り・収穫などの作業を行っています。

また、毎年「岡山市食農教育研修会」を開催し、この事業における事例発表会や講演会を行い、「子ども食農体験事業」の普及・啓発に努めています。



「子ども食農体験事業」実施校・園の推移

これまでの成果・課題

事業に取り組んだ幼稚園や保育園でのアンケート結果では、「食への関心が出た」「収穫の喜びを体験できた」「保護者の方と一緒に取り組めて、食育の良い機会になった」「水やりや草取りをしないと収穫に繋がらないことがわかった」などの意見がありました。嫌いなものでも食べられるようになったり、食べることに意欲的になったりしたようです。

しかし年々、農家の方の高齢化や離農などにより、指導者や学校や園の近くのほ場の確保が難しくなっています。

今後の構想

「子ども食農体験事業」の取組を行う学校・園の数は、近年あまり伸びていませんが、支援を受けずに独自に取り組んでいる学校や園も多くあります。今後もこの事業による支援を続けていきたいと考えています。

また、地域における農業や食への理解と住民相互の交流を深めるため、地域の経験豊かな高齢者クラブが中心となり、子ども会や町内会など地域住民と連携しながら農作業や調理体験等を行う取組を支援する「地域地産地消推進モデル事業」を平成23年度から開始しました。

旭操幼稚園での農業体験の様子(平成23年10月27日)

旭操幼稚園では、岡山市の「子ども食農体験事業」を活用し米作りに取り組んでいます。6月に田植えを行った稲の稲刈りを園児57名とその保護者の方が体験しました。



女子サッカーの選手も見守ってくれていました。

地域みなさんに、育ててもらっています。(感謝!)

うまく、刈れないなあ



米作りの体験は、地域の方の協力がなければできません。子どもたちには、田植えをすれば勝手に大きくなるのではなく、稲刈りまでの間にもいろいろな作業があり、地域の人たちがお世話をしてくれていることを伝えていきます。来年度もこの事業を活用させていただきたいと思っています。(by旭操幼稚園園長)

代表者の思い



森本 章男さん

農産物の生産現場と家庭の食卓の距離が広がる中、農業体験などを通して、食や農業の知識を養うことや共同で作業をすることの重要性などを学んでいくことは、人の成長に大きな恩恵をもたらしてくれるものと思います。当市では、「食農教育の推進」を重点施策と位置付けており、引き続き、支援を行っていきたくて考えています。